

出雲市

まち・ひと・しごと創生
第2期 総合戦略

IZUMO

「げんき、やさしさ、しあわせあふれる縁結びのまち 出雲」をめざして

出雲市まち・ひと・しごと創生「人口ビジョン」「第2期総合戦略」を策定しました

国は、急速に進む少子高齢化と、それがもたらす人口減少に歯止めをかけ、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくため、2060年に1億人程度の人口維持をめざした「長期ビジョン」と、そのための取組の方向性をまとめた「総合戦略」を策定し、国をあげて取組を進めてきました。

市においても、平成27年10月に出版の「人口ビジョン」と「第1期総合戦略（平成27年度～令和元年度）」を策定し、人口減少の抑制と持続可能なまちづくりに向け、全力で取り組んできました。

第1期総合戦略の期間中、市の人口は17万人台を維持していますが、今後も少子高齢化が進むと見込まれ、市内事業所における労働力の確保や地域コミュニティの維持など様々な面での影響が懸念されます。

市では、中長期的な視点で人口減少対策を進めていくため、国の第2期総合戦略等を踏まえるとともに、市議会や「出雲市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議（産業分野、教育分野、金融機関、労働団体、報道機関等の委員で構成）」での議論など幅広くご意見をいただきながら、本年3月に「人口ビジョン（改定版）」と「第2期総合戦略」を策定しました。

今後、市では、第2期総合戦略に基づき市民、事業者等と連携しながら人口減少の抑制と人口減少が引き起こす課題に果敢に挑戦していきます。

●人口ビジョン

人口の推移と将来人口推計



出典：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所による推計（平成30年）

目標人口

将来人口推計のとおり出雲市の人口が推移すれば、人口減少に歯止めがかからず地域社会や市民生活に深刻な影響を与えることが予想されます。このため、人口減少の進行を緩やかにするとともに、人口の年齢構成のバランスを改善することで、将来にわたり一定の人口規模を維持していくことが望まれます。市では、めざすべき人口の将来展望として目標人口を設定します。



①出生数の増加

2018年の出雲市の合計特殊出生率（1人の女性が生涯に産む子どもの数）は1.79で、国の1.42より約0.4高い状況にあります。目標人口の推計にあたっては、国の想定をベースとして、今後の政策効果により2030年に2.1（国1.8程度）、2040年に2.3（国2.07程度）への上昇を見込んでいます。

②社会増（転入者－転出者）の維持

近年は市内企業に勤める外国人の転入者増加等により社会増の傾向にあります。今後の移住・定住促進に向けた政策効果により、社会増の傾向が続くことを期待して、2035年まで年間350人程度の社会増を見込んでいます。

●出雲市まち・ひと・しごと創生「人口ビジョン」「第2期総合戦略」の全文は、市のホームページでご覧になれます。また、政策企画課等にも配置しています。

おたずね／政策企画課 ☎21-6614

●第2期総合戦略



計画期間：令和2年度(2020)～令和6年度(2024)

第2期総合戦略においては、人口ビジョンにおける目標人口の達成をめざして、5つの基本目標を定めて取り組みます。また、基本目標ごとに数値目標を設定し、第1期総合戦略における成果と課題や、先端技術の活用など新たな視点を踏まえ具体的な施策を推進します。

基本目標(1)

出雲の特性を生かした魅力ある雇用の場を創出するとともに、地域の産業を支える人材を確保する

スマート農業実証プロジェクト▼

雇用
創出数※
(5年間)

1,000人

※市の施策展開に伴う雇用創出数

数値
目標

農林水産業や観光産業など地域資源を生かした産業の活性化や、ものづくり企業等への支援を通して、若者にとって魅力ある多様な雇用の場を創出します。

また、喫緊の課題となっている労働力不足の解消に向け、市内事業所の人材確保の取組を支援します。

【具体的施策】

- ①第一次産業の活性化と担い手の育成・確保
- ②出雲ブランドの活用(「おいしい出雲」の周知拡大と活用促進など)
- ③滞在型観光の充実とインバウンドの推進(戦略的な情報発信と観光資源の発掘・活用など)
- ④地場企業への支援(創業支援、販路拡大支援など)
- ⑤企業誘致の促進(製造業・ソフト産業の新增設支援)
- ⑥地域の産業を支える人材の確保(IT産業の振興、地場企業の人材確保など)



▲日本遺産「日が沈む聖地出雲」

基本目標(2)

出雲との縁をつなぎ、ひとの流れをつくる

社会増※
(5年間)

1,600人

※転入者－転出者

数値
目標

出雲の「しごと」や「暮らし」の情報を積極的に発信するとともに、出雲ナンバーを活用して認知度向上やイメージアップを図ります。

また、就職支援をはじめとした各種支援制度や空き家の利活用により移住・定住の促進を図ります。

さらに、外国籍生徒の中学校卒業後の進路の確保、転職を希望する外国人住民の技能習得の場や就労先の確保など、定住志向のある外国人住民の定着に向け、環境整備に取り組めます。

【具体的施策】

- ①出雲の魅力発信(出雲の「しごと」と「暮らし」の情報発信など)
- ②移住促進(Uターン就職支援や空き家バンクの充実など)
- ③定住促進(定住促進住まいづくり助成、地元大学・専門学校の魅力化支援など)



▲県外でのUIターンフェアの開催



▲出雲ナンバー

基本目標 (3)

出雲で縁を結び、子育てしていく希望をかなえる

数値目標

出生数
(5年間)

8,000人

若い世代の結婚、子育ての希望をかなえるため、国・県の施策と連携し、結婚、妊娠、出産、子育てまでの切れ目ない支援を行います。

また、小・中学校における教育の充実を図るため、学力向上に向けた取組、ICT機器を活用した効果的な学習等を推進するとともに、困難を抱える子どもたち一人ひとりに寄り添った教育を実践します。

さらに、仕事と家庭の両立が図れるよう、事業者の理解と市民の意識改革を進め、ワーク・ライフ・バランスを推進します。

【具体的施策】

- ①結婚支援（縁結びプロジェクトの推進など）
- ②妊娠・出産・子育てへの切れ目ない支援
- ③教育の充実（外国語教育の推進など）
- ④ワーク・ライフ・バランスの推進



▲赤ちゃんのお世話教室

基本目標 (4)

住みやすさNo.1のまちづくりを行うとともに、住民による主体的な地域づくりを進める

いずも多文化にぎわい交流広場▼

数値目標

市民満足度調査
「住みやすいと感じる人の割合」

90%

誰もが生き生きと活躍できる、そしてどこに住んでも安全、安心に暮らせるまちをめざし、防災・減災に向けた取組、高齢者や障がい者の社会参加への支援、多文化共生の推進、地域の未来を担う人材の育成、中山間地域の活性化、交通ネットワークの確保等に取り組みます。

【具体的施策】

- ①安全、安心なまちづくり
- ②生涯現役のまちづくり
- ③共生のまちづくり（第2期多文化共生推進プランに基づく取組の推進など）
- ④中山間地域の活性化（地域課題解決に向けた取組支援）
- ⑤地域を支えるひとづくり（大学、高校との連携による地域の未来を担う人材の育成など）
- ⑥交通ネットワークの確保（山陰自動車道整備促進、出雲縁結び空港の利用促進など）

住民による将来の地域づくりに向けた話し合いの様子▶



基本目標 (5)

広域連携による魅力ある圏域づくりをめざす

数値目標

圏域人口
60万人の維持

中海と宍道湖沿岸の5市（島根県出雲市・松江市・安来市、鳥取県米子市・境港市）は、中海・宍道湖・大山圏域市長会を設立し、県境を越えた広域連携による取組を進めています。東アジアをはじめ世界に向けたゲートウェイとして、日本海側を代表する拠点となるよう、産業・観光分野においてグローバルな動きを強化します。また、交通ネットワークの整備・拡充を進めるとともに、恵まれた生活環境を生かし、「住みたくなる圏域づくり」をめざします。

【具体的施策】

- ①国内外を視野に入れた力強い産業圏域の形成
- ②未来をひらく交通ネットワークの形成
- ③恵まれた生活環境を生かした圏域の形成

インドケララ州訪問団との意見交換会▶



▲伯備新幹線の早期実現を求める総決起大会